

# Pictet Market Monthly

## 2020年2月のバイオ医薬品市場

### バイオ医薬品関連企業の株価動向

2月のナスダック・バイオテック指数(ドルベース、配当含まず)は小幅に上昇しました。

2月の株式市場は、二つの懸念材料を受け、波乱の展開となりました。市場に極めて大きな影響を及ぼしたのは、中国で発生した新型コロナウイルスによる感染症(COVID-19)が世界各地に広がっていることです。COVID-19は欧州にも飛び火してイタリアでは感染者が急増しており、世界規模の大流行(パンデミック)に発展する様相を呈しつつあります。感染経路不明の発症例は米国でも報告されており、どこまで拡散するかが注視されます。また、米国では民主党の大統領候補者指名を争う選挙戦も投資家心理に影響を及ぼし、「反資本主義(民主社会主義)」を標榜するサンダース氏が複数の州で勝利を収めたことが市場の不安感を強めました。

株価が大きく上昇した銘柄では、リジェネロン・ファーマシューティカルズ(米国)、バイオジェン(米国)、ギリアド・サイエンシズ(米国)などでした。リジェネロン・ファーマシューティカルズは、ノバルティス(スイス)の加齢黄斑変性症(AMD)治療薬(プロルシズマブ)の副作用のリスクが指摘されたことを受け、リジェネロンの「アイリーア」との競合を巡る懸念が後退しました。バイオジェンは、主力の多発性硬化症治療薬テクフィデラを巡るマイラン(米国)の特許切れの主張を米特許商標庁が退けたことが好感され、株価が急騰しました。ギリアド・サイエンシズは、同社の抗ウイルス薬候補レムデシビルがCOVID-19の治療に使える可能性があり、現在、大規模な治験が進められ、4月にデータ発表が予定されています。

株価が大きく下落した銘柄では、ゾージェニクス(米国)とアムジェン(米国)が挙げられます。ゾージェニクスは、米国食品医薬品局(FDA)が同社の治療薬候補の承認を延期したことなどが嫌気されました。一方、アムジェンは、通期の会社予想が控えめなものに留まったことや開発中のKRAS遺伝子変異を持ったがんの治療薬候補について当初の意気込みが薄れたことが嫌気されました。

### 今後のバイオ医薬品市場見通し

現在、医薬品に関連する医療費の議論で重要な転換が起こっています。いくつかの国では治療の有効性に依拠して医療費を支払う制度(価値に基づく医療)が利用されていますが、処方薬で最大のマーケットである米国においても、従来の出来高払い方式ではなく、同様の制度を求める声は、ますます大きくなっています。医薬品企業と同様に政府、規制当局、保険業者は、医薬品の開発においてイノベーションを抑制することなく、医薬品の費用を効率的に管理することができる妥

図表1: バイオ医薬品株価指数

(ナスダック・バイオテック指数)の推移

2020年2月28日時点

	前月比	過去3ヵ月	過去1年	
ナスダック・バイオテック指数(ドルベース)	0.3%	-4.5%	1.2%	
ナスダック・バイオテック指数(円換算ベース)	0.6%	-4.6%	-0.1%	
ダウ工業株30種平均指数(円換算ベース)	-9.8%	-9.5%	-3.2%	
円/ドル レート	0.3%	-0.1%	-1.3%	
(参考)	当月	前月	3ヵ月前	1年前
円/ドル レート	109.43	109.06	109.56	110.87
PSR (倍、実績ベース)	5.6	5.7	5.9	5.7

	過去3年	過去5年	過去10年
ナスダック・バイオテック指数(ドルベース)	15.4%	1.6%	307.9%
ナスダック・バイオテック指数(円換算ベース)	12.2%	-6.8%	399.2%
ダウ工業株30種平均指数(円換算ベース)	18.7%	28.6%	201.1%
円/ドル レート	-2.8%	-8.3%	22.4%
(参考)	3年前	5年前	10年前
円/ドル レート	112.56	119.27	89.43
PSR (倍、実績ベース)	5.1	6.8	3.4

※為替レート: 対顧客電信売買相場の仲値

※PSR: 2020年1月末時点のナスダック・バイオテック指数構成銘柄を基に算出した株価売上高倍率

出所: トムソン・ロイター・データストリームのデータを使用しピクテ投信投資顧問株式会社作成

協案を見つけることを必要としています。最も重要な利害関係者である患者は、破産のリスクにさらされることなく、高品質の治療を受けたいと考えています。これは、治療薬の開発といった科学的側面だけでなく、ビジネスモデルや先進的な思考、価値に基づいた契約といった側面においてもイノベーションを生む最高の機会となると考えます。株式市場の先行きには不透明感がありますが、そのような間でも、長期志向で、市場の非効率性に注目するアクティブ運用者にとっては、数多くの投資機会が存在するものと考えます。

(将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。)

記載されている個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、当資料におけるデータは将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

図表2:ナスダック・バイオテック指数

米ドルベース、月次、期間:2010年2月~2020年2月



出所:トムソン・ロイター・データストリームのデータを使用しピクテ投信投資顧問株式会社作成

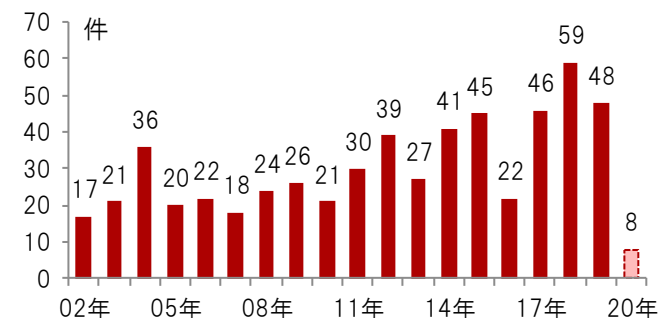
図表3:今後のバイオ関連学会予定

開催期間	学会名
2020年3月28日~3月30日	米国心臓学会議(ACC)
2020年3月28日~3月31日	米国内分泌学会議(ENDO)
2020年4月25日~4月29日	米国がん研究学会議(AACR)
2020年4月25日~5月1日	米国神経学会議(AAN)
2020年5月29日~6月1日	欧州高血圧学会議(ESH)
2020年5月29日~6月2日	米国がん治療学会議(ASCO)
2020年6月3日~6月6日	欧州リウマチ学会議(EULAR)
2020年6月11日~6月14日	欧州血液学会議(EHA)
2020年6月12日~6月16日	米国糖尿病学会議(ADA)
2020年6月19日~6月21日	米国微生物学会議(ASM microbe)
2020年7月2日~7月4日	国際糖尿病合併症学会議(IDF)
2020年9月11日~9月14日	米国骨代謝学会議(ASBMR)
2020年9月13日~9月16日	国際血液学会議(ISH)
2020年10月4日~10月6日	米国神経学会議(ANA)
2020年11月6日~11月11日	米国リウマチ学会議(ACR/ARHP)
2020年11月10日~11月14日	米国がん免疫療法学会議(SITC)
2020年11月11日~11月15日	米国がん免疫療法学会議(SITC)
2020年11月12日~11月16日	米国アレルギー・喘息・免疫学会議(ACAAI)
2020年11月14日~11月16日	米国心臓病学会議(AHA)
2020年12月5日~12月8日	米国血液学会議(ASH)
2021年1月15日~1月17日	ASCO消化器がんシンポジウム
2021年2月26日~3月1日	米国アレルギー・喘息・免疫学会議(AAAAI)

※学会の開催期間は変更、延期、中止されることがあります。  
出所:各種資料を使用しピクテ投信投資顧問株式会社作成

図表4:米食品医薬品局(FDA)による新薬承認件数

年次、期間:2002年~2020年(2020年は2月末時点)



出所:FDAのデータを使用しピクテ投信投資顧問株式会社作成

図表5:注目のパイプライン

領域	企業名	治療薬名 治療対象病名	
中枢神経系領域	バイオジェン	アデカヌマブ アルツハイマー病	
	アクサム・セラピューティクス	AXS-05 大うつ病	
	アカディア・ファーマシューティカルズ	ピマバンセリン 認知症関連精神症状	
	アカディア・ファーマシューティカルズ	ピマバンセリン 大うつ病	
	デナリ・セラピューティクス	血液脳関門通過性を高めるプラットフォーム技術 アルツハイマー病等の神経変性疾患	
がん領域	アムジェン	AMG510 KRAS変異がん	
	アムジェン	BiTE抗体 固形腫瘍	
	シアトル・ジェネティクス	tisotumab vedotin 子宮頸がん	
	シアトル・ジェネティクス	ツカチニブ HER2型乳がん	
	インサイト	タファシタマブ びまん性大細胞型B細胞リンパ腫(DLBCL)	
	インサイト	ベミガチニブ 胆管がん	
	エクセリクス	CabometyxとOpdivo、Yervoyの併用 腎細胞がん	
希少病領域	パーテックス・ファーマシューティカルズ	TRIKAFTA(3成分合剤・elezacaftor(VX-445) / tezacaftor / ivacaftor)、欧州での承認 嚥胞性線維症	
	パーテックス・ファーマシューティカルズ	VX-814、VX-864 α1-アンチトリプシン欠乏症	
	バイオマリン	遺伝子治療valoctocogene roxaparvovec 血友病A	
	サレプタ・セラピューティクス	カシメルセン デュシェンヌ型筋ジストロフィー	
	サレプタ・セラピューティクス	ペプチド付加モルフォリノ核酸を用いた治療薬 デュシェンヌ型筋ジストロフィー	
	サレプタ・セラピューティクス	遺伝子治療(SRP-9003) 肢帯型筋ジストロフィー2E型	
	サレプタ・セラピューティクス	遺伝子治療(LYS-SAF302) サンフィリボ症候群A型(ムコ多糖症IIA型)	
	PTCセラピューティクス	リスジプラム 脊髄性筋萎縮症	
	その他の領域	インサイト	ルキソリチニブ(塗り薬) アトピー性皮膚炎、白斑
		インサイト	ジャカファイ 移植片対宿主病(GvHD)(適応拡大)
レアタ・ファーマシューティカルズ		バルドキシロンメチル アルポート症候群	
レアタ・ファーマシューティカルズ		Omaveloxolone フリードライヒ運動失調症	
ケモセントリクス		Avacopan ANCA関連血管炎	
アリーナ・ファーマシューティカルズ		Etrasimod アトピー性皮膚炎(適応拡大)	

※ライセンス供与された治療薬も含まます  
出所:各種資料を使用しピクテ投信投資顧問株式会社作成

記載されている個別の銘柄・企業については、あくまでも参考であり、その銘柄・企業の売買を推奨するものではありません。また、当資料におけるデータは将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

## バイオ医薬品関連企業の売上高は相対的に高い伸びが見込まれる

バイオ医薬品関連企業の売上高は、新興国の企業を上回って堅調に成長してきました。(図表6参照)

バイオ医薬品関連企業については、①有望な治療薬候補の良好な治験結果の発表、②大型の新薬の承認、③新薬販売開始後の業績寄与の拡大などを背景に、米国企業や日本企業よりも相対的に高い売上高の伸びが見込まれています。(図表7参照)

## 売上高の伸びに沿って株価も上昇

過去の実績では、バイオ医薬品関連企業の株価は、売上高の伸びとともに上昇してきたことがわかります。(図表8参照)

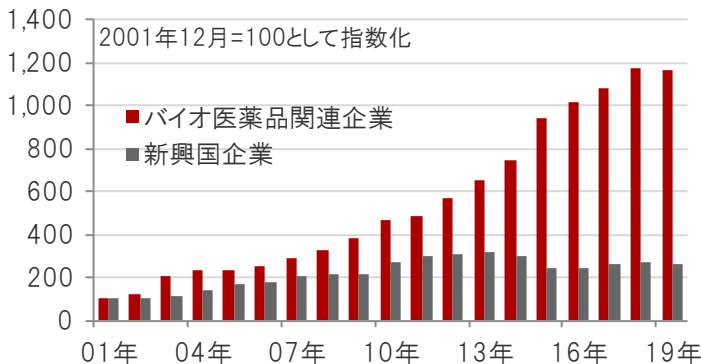
## バリュエーション

2011年以降、バイオ医薬品関連企業の株価が大きく上昇したことから、PSR(株価売上高倍率)で見たバリュエーション(投資価値評価)は高い水準にありましたが、足元では株価の調整を受け低下しています。(図表9参照)

(将来の市場環境の変動等により、上記の内容が変更される場合があります。)

図表6: 売上高の推移

米ドルベース、期間: 2001年12月～2019年12月

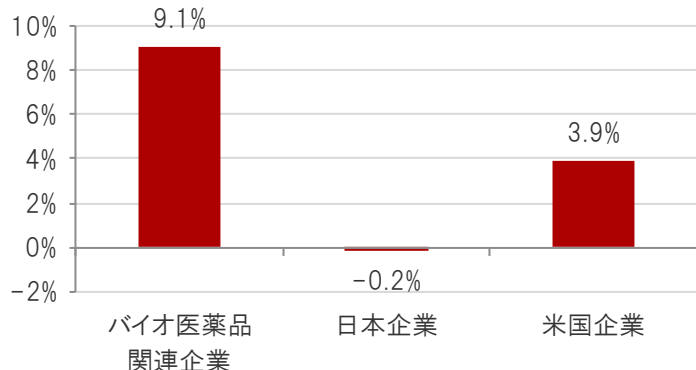


※バイオ医薬品関連企業: ナスダック・バイオテック指数、新興国企業: MSCI 新興国株価指数構成銘柄 ※売上高は一株あたり売上高(指数の値とPSR(株価売上高倍率)から算出)

出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

図表7: 今後2年間の売上高伸び率(年率)予想

時点: 2020年3月17日、ブルームバーグ集計アナリスト予想平均

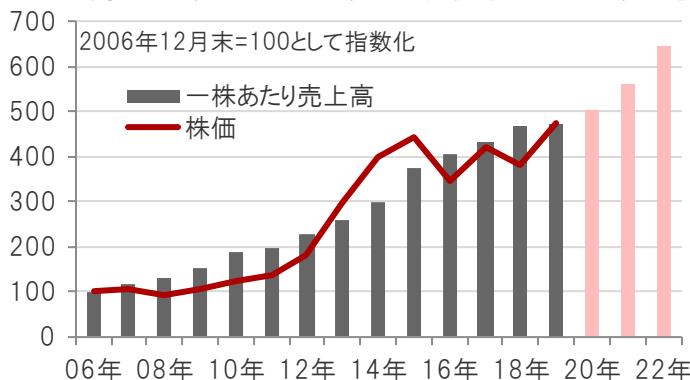


※バイオ医薬品関連企業: ナスダック・バイオテック指数、日本企業: TOPIXの構成銘柄、米国企業: S&P500種株価指数

出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

図表8: バイオ医薬品関連企業の売上高と株価の推移

期間: 2006年12月～2019年12月(実績)、2020～22年(予想)

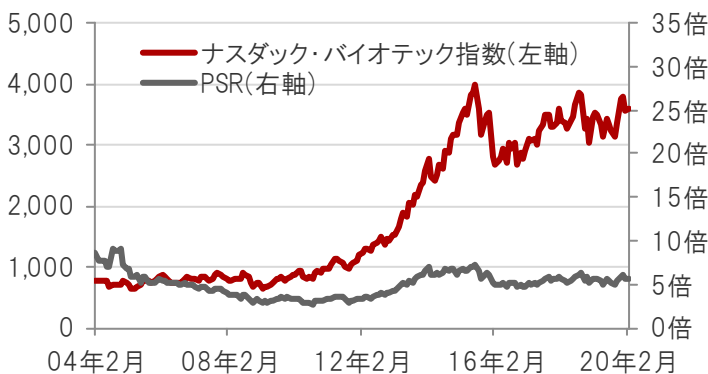


※バイオ医薬品関連企業: ナスダック・バイオテック指数 ※一株あたり売上高は、指数の値とPSR(株価売上高倍率)から算出 ※2020年～2022年の一株あたり売上高は、ブルームバーグ集計アナリスト予想平均

出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

図表9: ナスダック・バイオテック指数とPSRの推移

米ドルベース、月次、期間: 2004年2月～2020年2月



※PSR: 株価売上高倍率。2020年1月末時点のナスダック・バイオテック指数構成銘柄を基に算出

出所: トムソン・ロイター・データストリームのデータを使用しピクテ投信投資顧問株式会社作成

当資料におけるデータは将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。

## ピクテ投信投資顧問の投資信託をご購入する際の留意事項

### 1. 投資信託に係るリスクについて

- (1) 投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります)に投資いたしますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆さまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- (2) また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては目論見書や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

### 2. 投資信託に係る費用について(2020年2月末日現在)

ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。

- (1) お申込時に直接ご負担いただく費用：申込手数料 上限3.85%(税込)  
 ※申込手数料上限は販売会社により異なります。  
 ※投資信託によっては、追加設定時信託財産留保額(上限0.6%)をご負担いただく場合があります。
- (2) ご解約時に直接ご負担いただく費用：信託財産留保額 上限0.6%
- (3) 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用：信託報酬 上限年率2.09%(税込)  
 ※ファンド・オブ・ファンズの場合、ここでは投資対象ファンドの信託報酬を含む実質的な負担を信託報酬とします。  
 ※別途成功報酬がかかる場合があります。
- (4) その他費用・手数料等：監査費用を含む信託事務に要する諸費用、組入有価証券の売買委託手数料等、外国における資産の保管等に要する費用等は、信託財産から支払われます(これらの費用等は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません)。  
 ファンド・オブ・ファンズの場合、投資先ファンドにおいて、信託財産に課される税金、弁護士への報酬、監査費用、有価証券等の売買に係る手数料等の費用が当該投資先ファンドの信託財産から支払われることがあります。詳しくは、目論見書、契約締結前交付書面等でご確認ください。

当該費用の合計額については、投資者の皆さまがファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

#### 《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、ピクテ投信投資顧問株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収する各費用における最高の料率を記載しています。投資信託に係るリスクや費用は、各投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前によく目論見書や契約締結前交付書面をご覧ください。

### ピクテ投信投資顧問株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第380号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 日本証券業協会

#### 当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資家保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。※MSCI指数は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。